

平成 23 年 6 月 18 日

北関東フォーラム

於：シムックス

## 中斎塾 北関東フォーラム

### 平成 23 年 第 5 回講話

#### ほころびだした国の仕組み

今朝の新聞に、被災地の人たちで生活保護を申請し受給している人が義援金を貰った場合、生活保護を打ち切るといった記事がありました。義援金を生活費とみなすので、生活保護の対象から外れるというものです。いわき市で 2 世帯、南相馬市で 150 世帯がその対象になったと書いてありました。

私は先週、又、仙台に行きました。生活保護の申請者は想像以上に増えていました。被災した人たちは、自分たちでご飯を作るとか自主独立して生活するという習慣が失われています。支援物資があるので三度三度の食事はなんとかなるし、電気・水道・ガスも十分ではないけれども何とかなっている状況で、自分たちの力で稼ぐという行為が少なくなっています。

私どもの会社が 2、3 日前、石巻市に簡易事務所をスタートさせました。事務所といっても、駐車場 4 台分のスペースを借りて、そこにプレハブを置いたものです。困ったことに事務所の社員がハローワークに人を募集に行っても、人は大勢いるけれども全くのってこないのだそうです。ハローワークで申請をすれば、お金をただでもらえるということで、職が欲しいと集まってくる人よりも失業保険の手続きに来る人の方がはるかに多い。失業保険の期限が切れたあとは、生活保護を申請すれば働かずに生きていくことが出来る。働かなくても食べていける仕組みがあるのだから、それを最大限活用して、生活保護を貰えなくなったら勤めてもよいと考えている人が極端に増えているようです。仕方がないので、避難所を回って働きたい人を見つけていると言っていました。それでも、働かなくても食べられるから・・・という反応が多いそうです。

新聞で伝えているものは、勤めたいけれども勤められない、ミスマッチが多いという記事しか載せません。マスコミの報道している中に、「生活保護で食べられるから・・・」などという声はありません。現地に行ってみると、新聞報道とは全然違う世界が展開されていると感じます。

生活保護に関して言えば、今、生活保護の受給者数は日本の歴史の中で二番目に多いの

です。戦後の混乱期が 204 万人、今は 202 万人です。今年の 3 月で 202 万 2000 人を越したそうですから、あっという間に終戦直後の混乱期の記録を抜き去ると思います。ホームレスの人に対して、善意で生活保護の申請を勧める団体がかなり増えました。生活保護の申請を勧める手引きなど結構立派なものが出来ていて、読んでみると、なるほどこれならばと思うような本です。なにより、国の仕組みとして生活保護を申請したなら 100% 受理しなければいけないようになっているから、否が応でも生活保護の受給者は増えるでしょう。その費用は 4 分の 3 は国が負担し、4 分の 1 は地方自治体が負担する仕組みですから、地方自治体は悲鳴をあげているのです。ですから日本の国の仕組みは、色々なところでほころびが出ています。生活保護費だけで予算の半分くらい占める自治体はかなり出てくると思います。

### 政治家と政治屋の違い

何度か申し上げているように、平成 23 年は日本の国が坂を転げ落ちる年です。今年の季刊誌「知足」1 月号に、「今年は日本の社会が坂道を転げ落ちる年です。日本の国が崩壊する稀有な年にぶつかっていて、日本国民は国が崩壊する時に立ち合う、そして復興の兆しを見る廻り合わせなので、よくよく今年は自己防衛を進めて戴きたい」と書きました。年賀状にも、「今年は辛卯。辛く・悲しく・酷い年で、いけにえの羊が大量に死ぬという言義です。今年は日本経済が真っ逆さまに落ちる年で、死ぬ人がたくさん出る」と書きました。

なぜ、そうなっていくか……。人類は増え過ぎたから、淘汰される流れに今、入って来ています。日本人も多過ぎると思います。江戸時代の循環型社会くらいまで、人口が落ちてくれるとちょうど良い。今の人口の半分くらいまで減らないと、日本という国は立ち行かなくなるだろうと考えています。世界史的な流れでみると、伝染病、自然災害、戦争、或いは経済戦争で負けて命を落とす人(国民)の数が、今はあまりにも少な過ぎます。ですから凄まじい伝染病がこれから起きるだろうと思っています。いちばん人が亡くなる率が高いのは伝染病です。自然災害で亡くなっても、今回の東日本大震災で死者・行方不明者が 3 万人弱、関東大震災でも 14 万人です。

いずれにしても、これからたくさんの方が亡くなります。以前からお話している鳥の強毒性の新型インフルエンザは、日本で流行るだろうと思います。極論すると、政治が悪いからです。政治がきちんと機能していれば、多分、ウィルスの撃退も出来ると思います。ところが今は政治屋ばかりで政治家がいません。

今日のテーマの政治家と政治屋ですが、これはまるっきり違います。選挙に受かったな

ら次の選挙に向けての動きをする人が政治屋。政治家は当選したなら国家百年の計を考えて、理想を立ち上げて実行していく人です。付け加えると、政治屋は舌が2枚も3枚もある。政治家は舌が1枚だと思っています。今回の民主党政権の公約で、「国家公務員・地方公務員の報酬を2割下げる」と謳っていたにもかかわらず、何とか1割近く下げて、「我々は公約を守った」と民主党幹部が発言していますが、何を言っているのでしょうか。2割と言っておいて1割しか出来なかったのなら、嘘つきではないかと思います。ところが、「今まで自民党も為し得なかったことを、我々は1割も削減したのだ」と大きな顔をして胸を張っている。そこらへんの違いすら分からなくなっています。政治家と政治屋の違いです。

色々な政治屋の人たちと話をすると、だいたい政治で飯を喰っていくという思考パターンで、政治が商売になっていると感じます。市長なら市長になりたいと思って政治の世界に出たのなら、初志貫徹すればよいと思いますが、他の方に目が向いてしまう。すると応援者がだんだん離れてしまいます。肚の中に哲学がない人が政治屋になって、哲学がある人は政治家になっていくように見えます。今の日本の国の国会議員・県議員・市町村議員たちは、どれだけの人生哲学を持っているのでしょうか。そこらへんがどうしても足りない。選挙の際にアンケートをとりたいと思うくらいです。私は政治家に会うと、「あなたの舌は何枚ですか？」と聞いていました。そうすると「何枚あってもいいんだよ」と答える人もいましたし、真剣に考えて「1枚です」と答える議員さんもいました。今度から同時に、「あなたは政治家ですか？ 政治屋ですか？」と聞いてみようと思っています。そして上っ面の返事だけでなく、中身をどんどん突っ込んでみようと思っています。哲学を持っている人はどこかでコアがあるから、カチンとぶつかると思います。そういうコアのある人が、政治に携わるのがよいと思います。残念ながら今、哲学を持っている人が出られないような環境ではありません。どこかで日本の国の社会が崩壊して、政治屋ではなく政治家が表舞台に出られる環境が整ってくるのに、3、4年はかかると思います。それまでは政治屋が花盛りです。3、4年過ぎたところで政治家の卵が日本に出てくると干支学の観点から見えます。

ですから今年は自己防衛です。その手段として、新聞を読む時、何度も申しています3つの観点を思い出して下さい。一つは民主党が打つ無様な手、二つ目は国債の動向、三つ目は自然災害です。

民主党の打つ無様な手は、もう日常で、ごく当たり前に流れています。その中で、こんな手を打ったらどうなるのだろうか...と、自分で予測しながら見ていくのが良いと思います。どうにもならないと思うような手を民主党が打った時に、それを見抜けるかどうか。

その眼力を我々は養っておかなければならないでしょう。例えば、菅さんが総理大臣の座にずっと居座って、だれも引きずり降ろせないのは何が悪いのか。三木武夫さんの時も、そうでした。ということは、内閣総理大臣を選ぶ仕組みがいけないのではないか。ならば、そこにメスを入れる必要がある。内閣総理大臣を選ぶには国民投票の方がよいのではないか？ 日本にとって必要だと思うものは国民投票にかけるべきだと主張する政治勢力が出てきてもおかしくはない。今は消えているだけで、かつてはいたのですから。

民主党の打つ手を注意して見ている、〈これは日本にとって、とんでもないことだ〉と思ったなら、それをどうすれば打開できるか、我々の手で少しでも変えられる方法を考え、あたためて、少しずつ広げていく必要があると思っています。

国債は又、格付けが落ちるでしょう。そうすると、その先はハイパーインフレが待っています。日本の国債が暴落しても、日本人が持っているのだから関係ないと思っている人が沢山いますが、関係ないでは済まされない。国債が暴落する。そうすると、外資が日本に乗り込んでくる。日本国民は何が何だか分からないうちにハイパーインフレに呑み込まれて、食べ物がまともに食べられなくなる時代が来る。

何度もお話していますが、ロシアの人たちは、ハイパーインフレで約 2000 万人の人が餓死をしました。餓死というとピンとときませんが、今回の原発事故で日本人も餓死をしています。警戒区域に指定されてほとんどの住民は町を出たけれども、色々な事情で出ない人がいる。息子さんが防護服を着て一時帰宅してみると父親がミイラ化して死んでいたというニュースは、マスコミにはあまり報道されませんでした。息子さんは父親に何度電話をしても出ないので、無事にどこかに逃げているのだらうと思っていたそうです。こういう事態になれば、普通ならば菅政権は吹っ飛ばすはずですが、事実だけを並べてみても、菅政権が吹っ飛ばんでもいいような事実が沢山あるのです。ところが今いるのは政治屋ばかりですから、この始末です。

私は今月末、奥尻島に行って来ようと思っています。奥尻島は 1993 年(平成 5 年)の北海道南西沖地震による津波で、200 人ものが亡くなりました。その後、各家庭に 1 世帯あたり 1400 万円以上のお金が配られるなど、被害総額 800 億よりも多額の資金が復興の為に投入されました。復興のモデル地域になっているわけです。それが今どういう状況なのか、自分の目で見てきたいと思っています。来月のフォーラムで皆さんにお話出来ると思っています。

その次は、大阪の浪速区にある安政の大津波の碑を見に行くつもりです。この石碑には、

「大地震が起きた場合には、必ず津波が襲うものと心得るべきだ。津波が川を逆流して、大勢の人が亡くなった。心ある人は時々碑文が読みやすいよう墨を入れ、伝えていってほしい」と書かれているそうです。

他にも昔の人の言い伝えや石碑が、日本の国の中で色々な所に残っています。政治家たる者はそういうものをよく見て、一つ一つ丹念に調べて、現代に活かすべきです。そういう動きを期待します。政治の動きがまだまだというより、まるっきり足りないと思っています。

以上で本日の講話終了致します。有難うございました。